

# 元の理～この世の摂理～

2020.12.11 ver.

-作成途中- ©小林真

人間が生きる意味。それは人を助け又助けられ、遊び心の中に喜び勇む道、「陽気遊山」にある。自分の身体、又、この世の全ては、陽気遊山の為に借りている物で、心のみが自由な存在である。心が自ら陽気遊山に向かう時、現実はすぐに変わり始める。この図表は、世の中の事象・現象を全て解き明かすものである。深く思案してみてほしい。

どんな道も、案じ心は持たぬよう。 \*「理」=事実、要因

どんな時も、この身、全てを借りてることを忘れずに。

どんな小さな事象にも、自分にとって何かの意味がある。

十柱の働きには、「陰での働き」主体(陽3:陰7)のものと「陽での働き」主体(陽7:陰3)のものが存在する。

自分ではなく、周りを立てる心。普段は見えない陰で下から支え、大事な所で俊敏に足を運びつぱり支える。局面を見極める洞察力と仲間(他の骨)との密接な連携が欠かせない。

足の役割。頭低く、影で下の方から支える柱の働き。

ここぞという所で俊敏に硬化する働き。

物事が治まる理。

陰で周りを引き立て支え、大事な所で俊敏につっぱる心

⑥月よみ

体内: 骨、首、足腰、男一の道具

世界: つっぱり支える働き

立てる働き、柱、茎、遠心力

膨張力、反発力、外へ

北西

六日 六だいおきある

ろくくに治まる

夜

陰での働き

時季を見定め、陰の働きや隠れた長所を根気よく引き出す実りの心

陽3: 陰7

⑨をふとのべ

体内: 出産時に子を引き出す働き

身長、爪、毛髪の成長、思い出す、閃き

世界: 引き出し一切、潜在的なものを引き出す働き、教育

動植物の成長

風

流れを生み、向きを変える働き。

言って勇ませ、聞いて楽しむ心

陽での働き

陽7: 陰3

⑧かしこね

体内: 息、呼吸、鼻で吸い(加温、加湿)

清浄 口で吐く(冷暖房、加湿除湿)

声、言葉、耳、聴覚

世界: 風、音、空気、大気

潮の満ち引き

右親指

優しく心地のいい風、言葉が生まれる。

言葉は命

運命を変える

物事が当たり前に思えてしまう状態

をもたり不足時:

冷え性、悪寒、低体温、

貧血、極寒、低体温etc.

陰の働きを有難いと思えた理。湧き上がってくるぬくみの心。温かい光で周りを明るく照らす、見える働き。物事の台、原動力となる。人を喜ばせ、助けたいという想い。感謝、情熱が行動へ。

ほこりやいんねんを厳しく現す性質。

意意識領域。

陰の働きを有難く思い、こみ上げてくる明るいぬくみの心

陽7: 陰3

②をもたり

体内: 体温、活力、感情

交換神経、運動神経

世界: 火、太陽、熱、光

マントル、エネルギー

左親指

陽での働き

陽7: 陰3

⑤くにさづち

体内: 皮膚、肉、筋原纖維、手

血管系、リンパ管系、女一の道具

世界: 柔軟な繋ぎの働き

花、縁、出会い、求心力

万有引力、内へ

意識領域。

手の働き。繋いでぎゅっと握る。

体裁を気にせず、阿呆になる。

物事の繋がりを生む理。

見聞き、経験する出来事を普く喜び、つなげる心。不平不満は繋がらない。見聞き、経験する中に自らのいんねん、歩むべき道が見える為、喜ぶ。喜べるから、新しい繋がりが生まれる。

人の埃が見える間は、自分にもそれだけの埃がある...

心のほこり(毎日払い、人にほこりを積まぬよう)

おいしい、ほしい、かわいい、よく、こうまん

にくい、うらみ、はらだち、嘘、追従(我が身心を捨てる)

心の理

この道は言うて聞かず道やない。行うて見せる道や

自ら勇んで通り、その姿を周りや社会へ映していく時、世界が変わってくる。逞しい往還道へと繋がっていく。

また、見聞き、経験する事象、現象が、なぜ、どういう理で現れたのか、"自分は"どういう理を尽くすのか、自ら思案し悟ることが大事になってくる。同じ物事でも見方が変われば、景色が変わる。全て心通りに映っていく。

『この道は言うて聞かず道やない。行うて見せる道や』  
自ら勇んで通り、その姿を周りや社会へ映していく時、世界が変わってくる。逞しい往還道へと繋がっていく。  
また、見聞き、経験する事象、現象が、なぜ、どういう理で現れたのか、"自分は"どういう理を尽くすのか、自ら思案し悟ることが大事になってくる。同じ物事でも見方が変われば、景色が変わる。全て心通りに映っていく。

天とは、普段見えない陰の働き。  
心もまた目に見えない陰の働き。  
天の理とは、見えない陰の働きの理のことであり、心の理のことである。

過剰(かしこね 不足):  
物事が處理しきれず、その状況を断ち切る状態。  
瞼が勝手に下がってくる状態。

不足(かしこね 過剰):  
物事への執着が強くなり、先案じや保身の考えが先行して、先へ進めない状態。不安や心配などで、瞼を閉じ切れない状態。割り切れず思い切れず、踏み切れない、けじめがない。切れ味が悪い、保守的

過剰(ふとのべ 不足):  
物事を強引に受け入れ、闇雲に流れてしまう状態。暴飲暴食・下痢状態。咀嚼せず、味わわず、消化せず、吸収できず。大雨洪水状態。  
物忘れの傾向。

不足(ふとのべ 過剰):  
物事を柔軟に受け入れず、流れに反して物事に執着し手放さない状態。偏食、拒食or便秘状態。干ばつ状態。過去や現状に執着し、老廃物を流せない状態。嫌な事が頭に浮かび、忘れられない傾向  
→過剰&不足: 物事が身に付かず、朝を迎えない。新たな清々しい空気、新鮮な景色を迎られない、無理な辛抱や我慢  
柔軟に流れに合わせて。苦(雲)のない循環はない。

人を助ける処に、自分が助かる。  
相手とともに、皆で助かっていく道。

ヒント!

【二つの理とその均衡】

対になる働きは、まるでシーソーのように連動して作用している。

①くにとこたち: ②をもたり

③いざなぎ: ④いざなみ

⑤くにさづち: ⑥月よみ

⑦くもよみ: ⑨をふとのべ

⑧かしこね: ⑩たいしょく天

隣り合う働きも夫々似ており連動している。なので、この図は3Dで立体視することも可能である。